

令和4年度

富田中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①「友愛 自律 互敬 互譲の精神を実践できる生徒の育成」
- ②「学習習慣を確立し、自らの課題に主体的に取り組む生徒の育成」
- ③「学びをふり返り、自己調整学習に取り組むことができる生徒の育成」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 郡 あゆみ 森岡 翔哉	委員	総括 大泉 計 総括補佐 吉成 文敬 松谷 薫 教務主任・研修主任 根津 彰 藤原 利通子	1学年主任 粟田 恭史 2学年主任 藤原 利通子 3学年主任 田川 悦子 特別支援教育コーディネータ 森田 悦子
	校長	大泉 計 印	

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に意欲的に取り組む生徒が多い。 ●学習に困り感を抱いている生徒に対する学習意欲の喚起や基礎的・基本的な知識・技能の定着につながる支援体制の確立が必要である。	・学習目標の達成に向けて、仲間と協同しながら根気強く学ぶことができる。 ・基礎的・基本的な知識・技能を活用することができる。	・各教科の教科性に合わせ、生徒自身が見通しをもち、ふり返りができる方策をとる。 ・基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を設定したり、定期テスト等で獲得した知識が関連しているかどうかを問う記述問題を出題したりする。		・教員へのアンケートによると、ほぼすべての教員が、単元ごとに見通しをもって授業を展開し、ふり返りができる方策をとっていることがわかった。 ・ほとんどの教科の定期テストにおいて、獲得した知識同士が関連しているかどうかを問う記述問題を出題している。	・知識・技能の習得だけでなく、それらを目的をもって活用できる学習活動を設定する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを広げ深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に意欲的である。 ●自分の思いや考えを表現することに苦手意識をもつ生徒への支援が求められる。	・習得した知識・技能を活用しながら、より高次の活動や問題解決ができる。 ・使用語彙を増やし、伝えたい事柄を正確かつ適切に伝え合うことができる。	・自ら考察し、表現する機会として、少人数で話し合う学習活動を設定したり、まとめ発表や討論、レポート、テストの記述等に取り組ませたりする。 ・校内研修や授業観察などを通して、コミュニケーション能力を高める手立てやICTの効果的な活用等、教科横断的に取り組める指導方法等について議論し、授業改善を図る。 ・「国語力を生かした授業改善のポイント(国語力向上タスクフォースの提案)」を取り入れた活動を行う。また定期テストでその成果を確認する。	・ステップアップテスト・全国学力学習状況調査の結果から、「問題の意図を読み取る力」や「長い問題を粘り強く読む力」が不足していることが分かったため、毎週、子ども向け新聞「阿波っ子タイムズ」を読み、自分が選んだ記事の要約と意見をコミュニケーションアプリ( Teams )に入力させる。	・生徒へのアンケートにおいて、「授業の中で、プレゼンテーション・グループ活動・レポートなどの活動がある」という質問に肯定的な回答をした生徒は約 90 %で、授業の中で生徒が主体的に学ぶ場面が増えていることがわかる。	・与えられた問題をこなすだけでなく、生徒が自ら課題を発見し、その解決方法を考えたり、解決策を伝え合ったりする場面の設定を意識した授業をデザインする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本的な学習規律が定着しつつあり、学習に真面目に取り組む雰囲気がある。 ●自らの課題を自覚させた上での動機付けや、家庭学習の習慣化とその質の向上につながる指導方法の工夫や支援が求められる。	・学びをふり返り、自らの学習を調整しようとすることができる。 ・学ぶことと将来のつながりを見通し、自主的・自発的に学習に取り組むことができる。	・学力向上推進員が中心となり、課題テスト後に自己調整の機会を設定したり、テスト前に生徒自ら PDCA サイクルを回すことができるテスト計画表を活用させたりする。 ・生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設定する。 ・家庭学習について、学習内容の定着に向けて、自らの課題に主体的に取り組めるよう、教員間で情報を共有しながら個別の支援を行う。		・「毎回のテスト後に必ずふり返りを行っている」と回答した生徒は約 20 %と少なく、テスト後の振り返りが不十分であることが分かった。「学習計画表」や「補強シート」の活用を提示した学年では、苦手な単元や学習項目について生徒自身の自己理解が深まり、重点的に学習に取り組む生徒も見られた。	・タブレットを活用し、自主的・自発的な学習を促すことですべての生徒が個々に達成感を感じられる個別最適な学びを実現する。 ・生徒の学習意欲を高めることができる家庭学習の提示方法や課題内容について検討する。

令和4年度 学力向上ロードマップ

